

問1 次の記述は医薬品の本質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべてが解明されているわけではない。
- b 医薬品の薬効には好ましくない反応（副作用）も含まれる。
- c 人体に対して使用されない医薬品は、誤って人体がそれに曝^{さら}されても健康を害することはない。
- d 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問2 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医療用医薬品に比較し一般用医薬品はリスクが相対的に低いので、保健衛生上の注意は必要でない。
- b 検査薬は、人体に対して直接使用されないため、人の健康に影響を与えることはない。
- c 医薬品の適正な使用を図るには、科学的根拠に基づく適切な理解や判断が必要である。
- d 一般の生活者においては、一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能、効果や副作用について誤解や認識不足を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問3 医薬品の本質に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の有効性については、市販前に確認されているので、市販後の確認は行われない。
- 2 一般用医薬品には、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に必要な情報が記載されている。
- 3 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- 4 販売時の取扱い、製品の成分分量、効能効果、用法用量、使用上の注意が変更になった場合には、それが添付文書や製品表示の記載に反映される。

問4 医薬品の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b 薬という物質、すなわち薬物が生体の生理機能に影響を与えることを生理作用という。
- c 副作用は、眠気や口渴等の比較的良好に見られるものをいい、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものは含まれない。
- d 副作用には、薬物によるアレルギー（過敏反応）が関与するものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問5 医薬品の作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品を十分注意して適正に使用した場合には、副作用を生じることはない。
- 2 医薬品には、アレルギーを起こす可能性のある鶏卵を原材料として作られているものはない。
- 3 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用により、別の疾病の症状が悪化したり、治療が妨げられたりすることがある。
- 4 医薬品によるアレルギーは内服薬だけに限られ、外用薬で引き起こされることはない。

問6 次の1～5で示される訴訟のうち、医薬品による副作用等にかかる訴訟以外の訴訟はどれか。

- 1 サリドマイド訴訟
- 2 スモン訴訟
- 3 HIV訴訟
- 4 CJD訴訟
- 5 水俣病訴訟

問7 医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 相互作用によって医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- 2 保健機能食品は、医薬品と相互作用を起こすことはない。
- 3 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ使用する医薬品の種類が異なることから、医薬品同士の相互作用に関して特に注意する必要はない。
- 4 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

問8 医薬品と食品との飲み合わせに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生薬成分を含有する食品と合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- b 食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- c カフェインやビタミンA等のように、食品中には医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があります、それらを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- d アルコールは、主として小腸で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その代謝機能が高まっていることが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問9 次の記述は、高齢者の医薬品の使用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、嚥^{えん}下障害を持つ場合があるので、内服薬を使用した際に便秘の副作用を起こしやすい。
- b 高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合があるので、情報提供や相談対応においては特段の配慮が必要である。
- c 高齢者は基礎疾患を抱えていることが多いが、一般用医薬品を用法用量どおりに使用していれば、基礎疾患の症状悪化や治療の妨げになることはない。
- d 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問10 小児等の医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児は、大人と比べて医薬品の成分が脳に達しにくいいため、中枢神経系に影響を与える医薬品では副作用を起こしにくい。
- 2 小児は、医薬品の成分の代謝・排泄が速いため、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- 3 成人用の医薬品を小児に与える場合は、成人用の服用量を年齢に応じて適宜減らして服用させる。
- 4 乳児は、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。

問11 妊婦又は妊娠していると思われる女性の医薬品使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- 2 一般用医薬品においては、多くの場合、妊婦が使用した際の安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用について「相談すること」としているものが多い。
- 3 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混じりあう仕組みとして、胎盤関門が存在し、医薬品を使用するとその成分はこれを通り胎児へ移行する。
- 4 便秘薬のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある一般用医薬品も存在する。

問12 プラセボ効果に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に(a)によらない作用を生じることをプラセボ効果(偽薬効果)という。プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による(b)な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による(c)な変化等が関与して生じると考えられている。

- | | a | b | c |
|---|------|-----|-------|
| 1 | 生理作用 | 楽観的 | 自然発生的 |
| 2 | 生理作用 | 悲観的 | 自然発生的 |
| 3 | 薬理作用 | 楽観的 | 自然発生的 |
| 4 | 薬理作用 | 悲観的 | 人為的 |
| 5 | 代謝作用 | 楽観的 | 人為的 |

問13 次の記述は、医薬品の品質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 液剤などでは、いったん開封しても、「使用期限」まで品質が保持される。
- b 医薬品に異物の混入がある場合、健康被害の発生の可能性が無くても販売してはならない。
- c 一般用医薬品では、購入後すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている「使用期限」から十分な余裕を持って販売がなされることも重要である。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化を避けることができる。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問14 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、薬事法により定義されている。
- 2 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- 3 一般用医薬品は主として軽医療の分野で使用されるものである。
- 4 一般用医薬品には衛生害虫の防除、殺菌消毒等といった保健衛生上の役割は持たされていない。

問15 適切な医薬品選択と受診勧奨に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高熱や激しい腹痛など、症状が重いときには、ただちに一般用医薬品を使用して症状の軽減を図ることが適切な対処といえる。
- 2 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦など、医薬品を使用する人によって変わってくる。
- 3 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処した場合であっても、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医師の診察を受けることが望ましい。
- 4 一般用医薬品の購入者への情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結び付けるのではなく、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合があることにも留意する。

問16 次の記述は、一般用医薬品の販売時におけるコミュニケーションに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が、相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれのあるものを摂取していないかを確認する。
- b 家庭における常備薬として購入される場合であっても、購入者側の状況の把握に努めることが望ましい。
- c 一般用医薬品の適正な使用のために必要な情報は、基本的に添付文書や製品表示に記載されているので、特に個々の購入者や使用者の状況を把握する必要はない。
- d 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合は、コミュニケーションを図る必要はない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問17 一般用医薬品を販売する際に、医薬品の販売に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的ポイントがいくつかある。

次の1～5で示される基本的ポイントのうち、不適當なものはどれか。

- 1 医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- 2 健康保険に加入しているか。
- 3 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- 4 その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。
- 5 その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。

問18 スモンに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 スモンの一般的症状には、持続する高熱がある。
- 2 スモン訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。
- 3 スモン訴訟は、患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいとの各地の地裁、高裁の勧告にもかかわらず、未だ全面和解に至っていない。
- 4 スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、せきずい亜急性脊髄視神経症（スモン）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

問19 以下のセルフメディケーションに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の(a)に責任を持ち、(b)身体の不調は自分で手当てする」とされている。

	a	b
1	健康	緊急の
2	医薬品の保管	緊急の
3	健康	軽度な
4	医薬品の保管	軽度な
5	行動	軽度な

問20 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の種類によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行する。
- 2 乳幼児に好ましくない影響が及ぶことが知られている医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避けることができるよう、授乳婦に対して、積極的な情報提供がなされる必要がある。
- 3 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは困難なことが多く、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- 4 保健衛生上のリスクを伴うものは、医薬品とはいえない。

問21 かぜに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの症状には、悪心・嘔吐^{おう}や下痢等の消化器症状も含まれる。
- b かぜの原因のほとんどはウイルスの感染によるものであり、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば、かぜの諸症状は自然に治る。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問22 かぜ薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアセトアミノフェンが配合されたかぜ薬は、15歳未満の小児で水痘^{とう}又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。
- b リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインは、延髄^{ずい}の咳嗽^{がいそう}中枢に作用して咳を抑える成分であるが、依存性があり、長期連用や大量摂取によって、薬物依存につながるおそれがある。
- c 去痰^{たん}成分は、塩酸ブロムヘキシンのように、気道粘膜からの分泌を促進する作用を示すものと、塩酸メチルシステインのように、痰^{たん}の中の粘性蛋白質^{たん}に作用してその粘りけを減少させるものの2つに大別される。
- d アドレナリン作動成分である塩酸メチルエフェドリンは、交感神経系を抑制して気管支を収縮させ、呼吸を楽^{せき}にして咳を鎮める作用を示す。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問23 眠気を促す薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等によるものであるため、塩酸ジフェンヒドラミンではなく、ブロムワレリル尿素を用いることが望ましい。
- b アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳の興奮を抑え、痛み等を感じる感覚を鈍くする作用を示す。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、中枢作用が強いため、慢性的な不眠症状に対して用いられる。
- d 桔梗湯は、不眠の症状の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問24 鎮暈薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェニドールの副作用として、頭痛、散瞳による異常な眩しさ、口渇が現れることがある。
- b ジメンヒドリナートや塩酸メクリジンは、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、乗物酔い防止に古くから用いられている抗コリン成分であり、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。
- d 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑えることを目的として、カフェイン（無水カフェインを含む。）やジプロフィリンのような局所麻酔成分が配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問25 小児に現れる症状及びそれらを適応症とする小児鎮静薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳かんの虫等の症状が現れることがある。
- b ゴオウ、ジャコウ等の生薬成分が配合されている場合があるが、いずれも古くから伝統的に用いられているものであり、作用が穏やかで小児に用いても副作用は全く無い。
- c 抑肝散よくかんさんを小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、いったん服用を中止して、専門家に相談する等、その使用が適しているかどうか見直すことが望ましい。
- d 構成生薬としてマオウを含む神秘湯しんぴとうは、小児虚弱体質、疲労倦怠けん、神経質、小児夜尿症、夜泣きに適すとされる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問26 口腔咽喉薬くういんこう・含嗽薬そうに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部いんに行き渡るように、噛まずにゆっくり溶かすように使用されることが重要で、噛み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。
- b 噴射式の液剤では、むせることがあるので、声を出しながら噴射してはいけない。
- c 含嗽薬そうは、用時水で希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃ければ濃いほど効果が高くなる。
- d 含嗽薬そうの使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問27 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。このかぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

9錠中	
アセトアミノフェン	390mg
トラネキサム酸	420mg
エテンザミド	850mg
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3.5mg
ヒベンズ酸チペピジン	75mg
d-塩酸メチルエフェドリン	60mg
無水カフェイン	75mg

- a トラネキサム酸 _____ 炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。
b エテンザミド _____ 脳に軽い興奮状態を引き起こし、倦怠感を抑える。
c d-マレイン酸クロルフェニラミン _____ 痰の中の粘性蛋白質に作用して、痰の切れをよくする。
d ヒベンズ酸チペピジン _____ 中枢神経系に作用し、咳を抑える。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問28 カフェインに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用として、振戦（震え）、めまい、不眠、頭痛を生じることがある。
b 腎臓での水分再吸収を抑制する働きがあり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
c 胃液の分泌を抑制する作用があり、胃潰瘍の診断を受けた人は服用を避ける必要がある。
d 心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸が現れることがあるので、心臓病の診断を受けた人は服用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

問29 痛みや発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痛みや発熱は、体内で産生されるアルドステロンの働きによって生じる。
- 2 月経痛（生理痛）は解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれているが、腹痛を含む痙攣性^{けいれん}の内臓痛については発生の仕組みが異なるため、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- 3 アスピリンには、主として血液を凝固しにくくさせる作用があるため、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられている。
- 4 化学的に合成された解熱鎮痛成分の副作用として生じる喘息^{ぜんそく}については、「アスピリン喘息^{ぜんそく}」が知られているが、アスピリン特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じる可能性がある。

問30 口腔咽喉薬^{くわういんこう}・含嗽薬^{そう}に配合される成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | | | | |
|---|----------------|-------|---|
| a | 塩化リゾチーム | ————— | のど ^{のど} の痛み又は喉 ^{のど} の腫れ ^は の症状を鎮める。 |
| b | 塩化デカリニウム | ————— | のど ^{のど} の粘膜を刺激から保護する。 |
| c | グリチルリチン酸二カリウム | ——— | 口腔内 ^{くわう} や喉 ^{のど} に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑える。 |
| d | アズレンスルホン酸ナトリウム | ——— | 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す。 |

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問31 第1欄の記述は鎮咳去痰薬に配合される気管支拡張成分に関するものである。

()の中に入れるべき字句について、第2欄に掲げる成分のうち最も適するものはどれか。

第1欄

()は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分であり、中枢神経系を興奮させる作用を示し、甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。

第2欄

- 1 ジプロフィリン
- 2 塩酸メチルエフェドリン
- 3 塩酸メトキシフェナミン
- 4 塩酸トリメトキノール
- 5 メチルエフェドリンサッカリン塩

問32 第1欄の記述は胃腸に作用する薬に関するものである。第1欄の記述に該当する成分として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

アルミニウムを含んでおり、透析療法を受けている人が長期間服用した場合にアルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を引き起こしたとの報告があることから、透析を受けている人は使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 ゲファルナート
- 2 テプレノン
- 3 塩酸ロペラミド
- 4 塩酸セトラキサート
- 5 アルジオキサ

問33 健胃成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a オウバクは、ミカン科キハダの樹皮であり、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b センブリは、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c ケイヒは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- d ユウタンは、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化成分として配合される場合もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問34 胃の薬の配合に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胃粘膜の炎症を和らげることを目的として、ウルソデオキシコール酸が配合されている場合がある。
- b 胃粘液の分泌を促す、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して、スクラルファートが配合されている場合がある。
- c 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）が配合されている場合がある。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問35 止瀉成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸アルブミンについては、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがあるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- b 収斂成分を主体とする止瀉薬については、細菌性の下痢や食中毒の時に使用する。
- c 塩酸ロペラミドが配合された止瀉薬については、食あたりや水あたりによる下痢を適用としている。
- d 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等）が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問36 瀉下薬に配合される成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マルツエキス ————— 小腸を刺激する。
- b センノシド ————— 大腸を刺激する。
- c カルメロースナトリウム — 水分を吸収し糞便のかさを増し柔らかくする。
- d ヒマシ油 ————— ガスによって便通を促す。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問37 次の1～5で示される漢方処方製剤のうち、胃の不調を改善する目的で用いられるものはどれか。

- 1 だいおうかんぞうとう 大黄甘草湯
- 2 ましにんがん 麻子仁丸
- 3 あんちゅうさん 安中散
- 4 けいしかしやくやくとう 桂枝加芍薬湯
- 5 だいおうぼたんびとう 大黄牡丹皮湯

問38 強心薬に配合される成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b ジャコウには、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- c ゴオウには、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇、興奮作用があるとされる。
- d ロクジョウには、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問39 高コレステロール改善成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあり、この場合は使用を中止し、使用の適否について医師または薬剤師に相談がなされることが望ましい。
- b 大豆油不^{けん}飽化物（ソイステロール）には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ビタミンEはコレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺^{しび}れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、低密度リ^{たん}蛋白質（LDL）を増加させ、高密度リ^{たん}蛋白質（HDL）の分解を促す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問40 循環器用薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ユビデカレノン — 高血圧等に伴うのぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重感の改善
- b コウカ ————— 末梢の血行を促して鬱^{うっ}血を除く
- c ヘプロニカート — 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによる血液循環の改善
- d ルチン ————— 高血圧等における毛細血管の補強、強化

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問41 外用痔疾用薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アラントイン ————— 創傷の治癒を促す
- b 塩酸ジフェンヒドラミン —— 痔疾患に伴う局所の感染を防止
- c グリチルレチン酸 ————— 抗炎症作用
- d シコン ————— 痔に伴う痒みを和らげる

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問42 痔及び痔疾用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔は、肛門付近の血管が鬱血し、肛門に負担がかかることによって生じる肛門の病気の総称である。
- b 痔核は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- c 長時間座るのを避け、軽い運動によって血行を良くすることは痔の予防につながる。
- d 一般用医薬品の痔疾用薬は、坐剤、軟膏剤又は外用液剤等、外用のものに限られる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問43 次の婦人薬に配合されている生薬成分のうち、血行を改善し、血色不良や冷えの症状緩和作用を期待して用いられるものの正しい組み合わせはどれか。

- a オウレン
- b モクツウ
- c トウキ
- d センキュウ

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問44 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含有するものはどれか。

- 1 し もつとう 四物湯
うんけいとう 温経湯
- 2 ご しゃくさん 五積散
- 3 とう き しゃくやくさん 当帰芍薬散
- 4 とうかくじょうきとう 桃核承気湯

問45 鼻炎用内服薬に含まれている成分とその成分に関する記述の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マレイン酸クロルフェニラミン — 肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える。
- b 塩酸フェニレフリン ————— 副交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- c ベラドンナ総アルカロイド ——— 鼻腔内の粘液分泌腺せんからの粘液の分泌を抑える。
- d メキタジン ————— 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問46 第1欄の記述は、アレルギー用薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

鼻づまり（鼻閉）、慢性鼻炎、蓄膿症のうに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸虚弱で冷え症の人では、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

第2欄

- 1 とう きいんし 当帰飲子
- 2 しん いせいはいとう 辛夷清肺湯
- 3 じゅうみはいどくとう 十味敗毒湯
- 4 しょうふうさん 消風散
- 5 かっこんとう 葛根湯

問47 鼻炎及び鼻炎用点鼻薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 急性鼻炎は、アレルギー性鼻炎と異なり、くしゃみや鼻汁等の症状の発現に肥満細胞からのヒスタミンの遊離は関与していない。
- b 鼻粘膜の炎症が副鼻腔にも及んだものを副鼻腔炎といい、慢性のものは一般に蓄膿症と呼ばれる。
- c アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなることがある。
- d 抗アレルギー成分が配合された点鼻薬は、まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー様症状を、その他の副作用として、鼻出血や頭痛を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問48 一般用医薬品の点眼薬及び洗眼薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 洗眼薬は、涙液成分のほか、抗炎症成分や抗ヒスタミン成分等が配合され、目の洗浄、眼病予防を目的として用いられる。
- 2 一般用点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。
- 3 抗菌性点眼薬は、抗菌成分が配合され、細菌感染による結膜炎や麦粒腫、眼瞼炎などの症状の改善を目的として用いられる。
- 4 アレルギー用点眼液は、抗ヒスタミン成分や抗アレルギー成分が配合され、花粉、ハウスダスト等のアレルゲンによる目のアレルギー症状の緩和を目的として用いられる。

問49 眼科用薬に配合される成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- b 硝酸ナファゾリンは、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を期待して用いられる。
- d ホウ酸は、点眼薬の添加物として配合されることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問50 以下の殺菌消毒成分のうち、結核菌を含む一般細菌類、真菌類及びウイルスに対して殺菌消毒作用を示す成分の正しい組み合わせはどれか。

- a マーキュロクロム
- b エタノール（消毒用エタノール）
- c 塩化ベンザルコニウム
- d ポビドンヨード

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問51 以下の症状等に対する一般的な対応の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 打撲、捻挫^{ねんざ}は、まず、患部を安静に保つことが重要とされる。次に、内出血や痛みがあるうちはぬるま湯や蒸しタオル等で患部を温める。また、患部が腫^はれてくるのを抑えるため、弾性包帯やサポーターで軽く圧迫し、患部を心臓よりも高くしておく。
- b 湿疹^{しん}、皮膚炎は、皮膚を清浄に保つため、毎日の入浴やシャワーが推奨される。洗浄力の強い石鹼^{けん}や全身洗浄剤、シャンプー等を用いることが有効である。
- c にきび、吹き出物は、洗顔等により皮膚を清浄に保つことが基本とされる。吹き出物を潰^{つぶ}したり無理に膿^{うみ}を出そうとすると、炎症を悪化させて皮膚の傷を深くして跡が残りやすくなる。
- d みずむしが原因でじゅくじゅくと湿潤している患部には、一般的に水剤が適すとされる。皮膚が厚く角質化している部分には、軟膏又はクリームが適している。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問52 歯槽膿漏^{そうのうろう}及び歯槽膿漏薬^{そうのうろう}に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯髓炎^{ずい}が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がると歯周炎（歯槽膿漏^{そうのうろう}）となる。
- 2 歯周組織の炎症を和らげる作用を期待して、内服薬に、塩化リゾチームが用いられる。
- 3 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、外用薬に、組織修復成分であるアラントインが配合されている場合がある。
- 4 殺菌消毒成分であるグルコン酸クロルヘキシジンが口腔^{くわう}内に適用される場合、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。

問53 ニコチンの作用及び禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、脳の情動を司る部位に働いて覚醒、リラックス効果などをもたらす。
- 2 ニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- 3 顎の関節に障害がある人では、ニコチンを有効成分とする咀嚼剤の使用を避ける必要がある。
- 4 禁煙補助剤によりニコチン離脱症状を軽減しながら、1年を目途に徐々にその使用量を減らしていくことが禁煙達成につながるとされる。

問54 滋養強壮保健薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 滋養強壮保健薬は、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善又は予防等を目的とした医薬品である。
- b 医薬部外品の保健薬の配合成分は人体に対する作用が緩和なものに限られるが、配合するビタミン成分の1日最大量は規定されていない。
- c 生薬成分であるカシュウ、ゴオウは、医薬部外品の保健薬への配合は認められていない。
- d ビタミン成分等は、多く摂取したからといって、適用となっている症状の改善が早まるものでなく、むしろ水溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じる恐れがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問55 滋養強壯保健薬に配合される成分とその成分に関する記述の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンB12 ————— 赤血球の形成を助け、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンD ————— 体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- c ニンジン ————— 神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。
- d アスパラギン酸ナトリウム— 細胞の機能が正常に働くために重要な物質で、肝臓機能を改善する働きがあるとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問56 漢方処方製剤の用法用量において、適用年齢の下限が設けられていない場合があるが、そのような場合であっても使用しないこととされている年齢はどれか。

- 1 12歳未満
- 2 7歳未満
- 3 3歳未満
- 4 生後12ヶ月未満
- 5 生後3ヶ月未満

問57 うおのめ、たこ、いぼに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a うおのめは、角質の芯が筋肉にくい込んでいるため、圧迫されると痛みを感じる。
- b たこは、角質層の一部が単純に肥厚したもので芯がなく、通常、痛みは伴わない。
- c いぼは、表皮が隆起した小型の良性の腫瘍である。
- d ウイルス性のいぼは、1～2週間で自然寛解することが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問58 殺菌消毒薬の誤用、事故等による中毒への対処に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 誤って飲み込んだ場合、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときはまず水を飲ませる。
- 2 誤って吸入し、意識がない場合、新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。
- 3 酸性の殺菌消毒薬が誤って目に入った場合、アルカリで中和したあと、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。
- 4 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹼を用いて流水で皮膚を十分に（15分間以上）水洗する。特にアルカリ性の場合には念入りに水洗する。

問59 殺虫剤・忌避剤に含まれる成分について、正しい組み合わせはどれか。

- 1 忌避成分 ————— ピペニルブトキサイド（PBO）
- 2 殺虫補助成分 ————— ディート
- 3 カーバメイト系殺虫成分 —— メトキサジアゾン
- 4 ピレスロイド系殺虫成分 —— ペルメトリン
- 5 有機塩素系殺虫成分 ————— ダイアジノン

問60 一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血糖検査薬については、一般用医薬品（一般用検査薬）として薬局及び医薬品の販売業（店舗販売業、配置販売業）において取り扱うことが認められている。
- b 尿蛋白検査の採尿は、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- c 通常、尿は弱酸性に保たれており、食事が検査結果に影響を与えることはない。
- d 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、実際に妊娠が成立してから1週間後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正